

佐保台小学校 稲刈り体験学習・報告

青木 芳一

佐保台小学校5年生の水稲栽培体験学習は、今年で10年目を迎え10月18日に行われました。

澄みきった青空のもと、10時過ぎに担任の永井先生に引率された23名の児童が、ならやまのベースキャンプに到着しました。



鈴木会長より、稲の起源、ご飯の栄養についての説明がありました。先生からは、これからの作業の説明をしっかりと聞いて、けがをしないようにと注意がありました。



児童がコンピューターで作成したかかしの絵がある水田に移動しました。ノコギリ鎌で稲の株の切り方、6株ごとにひもで強く束ねることの説明がありました。北側の水田のあぜに23名の児童が、西から東に向け稲刈りをするため並びました。一斉に始



めると危険なため、偶数番、奇数番と順番に水田に入り、3株ずつ刈り取りを始めました。多くの児童は初めて体験するため、株を何回も切ること



かんだ児童もいました。今年は水分が多くぬかるんでおり、靴がもぐり、慣れていない児童たちの稲刈りは、大変な作業になりました。時間の制約もあり、多くの児童は東のあぜまで刈り取りができませんでした。会員が刈り取り作業に加わりまし

た。刈り取りと束ねる作業が完了後、稲掛け作業の説明がありました。6株で1束になっているのを半分に分け



さおに掛けて天日乾燥します。会員が準備したさおに、児童は会員の手助けを受けながら稲掛け作業を行いました。

約1時間の稲刈り体験の後、どろどろになった靴を洗いベースキャンプに戻りました。

6月7日に田植えをした水稲は、台風が来ましたが成長し稲刈りをすることができました。今日の体験で、農家がお米を育てるための大変な作業、そしてお米の大切さを学んでくださいと、鈴木会長から児童に対してお話がありました。

今年は、ならやま里山林において、マムシの出没が確認されています。児童が稲刈りをする水田を、会員が事前にマムシの追い出し作業をしました。

